ツルヲ取、左ノ手ニテハ口ノモトヲ取テ、口ヲバ公方樣御坐有方へ向不申シテ可致進上、

〔守貞漫稿十八雜服附雜事〕嘉永二年印行、古風ト流布トヲ、相撲番附ニ擬スル、略○中古風方ニ曰、○中廣。嶋。○藥鑵、眞鍮ニテ雲龍等ノ形ヲ打出ス

〔毛吹草三〕山城　藥罐細工

〔元祿五年萬買物調方記〕諸工商人所付いろは分

や　京之分　やくはんや　ふや町四條下ル丁　同　東洞院佛光寺下ル　同大佛やくはんやまち

五條はしから南ニすぢめけんにん寺町東へ入

や　江戸之分　やくはんや　日本橋北西中通かわや町　同　御ほりばた通　同　姫御門山城がし

や　大坂之分　やくわんや　天滿難波橋ノ西

〔書言字考節用集七器財〕土瓶ドビン本名瓦釜

〔物類稱呼四器用〕土瓶どびん　薩摩にてちよかと云、同國ちよか村にてこれをやく、ちよかは、もと琉球國の地名なり、其所の人薩州に來りて、はじめて制るゆへに、ちよかと名づく、又常陸及出雲或は四國にて、どひんとひの字を清て唱ふ、出雲常陸などにては、どびんとなづくるは、牛馬の睾丸也、四國にては人の睾丸の大なるをいふとぞ、

〔西遊記續編四〕高麗の子孫

薩州鹿兒島城下より七里西の方、ノシロコといふ所は、一鄕皆高麗人なり、略○中高麗燒の細工場幷びに竈を見物す、仰山なる事どもなり、此村半分は皆燒物師なり、朝鮮より傳へ來りし法を以て燒故に、白燒などは實に高麗渡りの如くにて、殊に見事なり、略○中其外は下品にて、質厚く色も薄黑く、烈火にかけても破るゝことなし、故に下品は土瓶など多く造り出す、これは夥敷賣買し

土瓶